

【緊急声明】

神宮外苑100年の森を守るために 再開発計画見直しを求めます。

私たちの会は 2013 年 10 月 28 日、都心の貴重な緑地である神宮外苑と、1958 年築の国立競技場を未来へ手わたすことを目的として結成された。当時、オリンピック招致が決まり、ザハ・ハディッド氏デザインの新国立競技場がデザインコンクールで選ばれ、神宮外苑にも大きな影響が及ぼされようとしていた。数多くの勉強会を開き、広く都民、国民にこの問題を知らしめ、10 万以上の署名を国会に届けた。当時の安倍晋三首相は、当初案は予算的にも無理として 2015 年初夏にこの案を撤回、再度のコンペにより従来の 4 倍もの面積を持つ新国立競技場が完成した。

この運動の過程においても、私たちは数多くの不正を見聞したが、「2020 東京オリンピックの主目的は都心の神宮外苑再開発だ」という意見の蓋然性は、延期された 2021 年オリンピックのあと、ますます高まってきた。

そもそも新国立競技場を建設するために、風致地区である神宮外苑周辺の高度制限は都や区の都市計画審議会において、さしたる議論もないまま撤廃されて 80 メートルまで許されることになった。東京都は 2018 年になって「東京2020大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」なるまさに業者の思惑通りの計画を発表した。これを上位計画として、2019 年に三井不動産、明治神宮、日本スポーツ振興センター(JSC)、伊藤忠商事の 4 事業者は、神宮外苑に超高層複合ビル 2 棟を含む再開発計画を公表した。しかしこの再開発計画は問題の電通の主導により、すでに 2003 年には始動していたことが報道されている。

翻って考えるに、明治神宮の歴史に照らせば、ここはもともと陸軍の練兵場、国有地であり、そこに明治神宮外苑を建設した。土木、建築、林学、農学の専門家たちが協力し、類を見ない 4 連の銀杏並木は東京の顔となる優れた景観であり、市民はもとより、外国人観光客にも愛されている。戦後土地は市価の半額で明治神宮に払い下げられた。その趣旨は建設に当たった明治神宮奉賛会によれば「公衆の優遊」すなわち国民、市民がここでスポーツを楽しみ、のんびり憩うことであった。それは奉賛会の会長徳川家達、副会長渋谷栄一、阪谷芳郎、そして三井財閥の祖である三井高棟らの合意である。そのため「明治神宮外苑志」によれば、「今後、博覧会の仮設を含めて余計な建造物を作らないこと、美観統一を永遠に保持するには専門委員会を設置するように」など一札入れている。

神宮外苑は明治天皇を偲ぶ場として内苑と一体となり、むやみな開発は許されてこなかった。公園には公園を維持する管理事務所、トイレ、喫茶店等最小限の建築しか許されないのが普通である。しかし開発者たちは都市計画制度の不適切な適用により「にぎわいの創設」「利便性の向上」などを理由に、ホテル付きの神宮球場、コンサートの出来る屋根付き秩

父宮ラグビー場、入会金 88万円の富裕層向けテニスコート、さらには超高層複合棟 2 棟などを計画しており、これは本来の明治神宮創設の趣旨に反する。そしてその開発のために、100 年成長してきた 900 本にのぼる樹木が切られ、また神宮球場は 4 連の貴重な銀杏並木西側に接近して建てられ、銀杏への水系、根系への影響が懸念されると専門家は述べている。開発者は、これに対して、伐採数を減らす、大事な木は移植するなどと言っているが、これは数の上のまやかしに過ぎず、移植した木がまともに育たないことは新国立競技場の例を見ても明らかである。

さらに多くの土地を所有する明治神宮の氏子総代に、開発者である三井不動産の岩沙弘道会長がおり、開発の妥当性を検討すべき小池百合子都知事も総代であるのは不適切で、政教分離の原則にも違反する。

再開発の名目は明治神宮の資金不足で内苑外苑を維持できないというものだが、全国一初詣客の多い明治神宮が経済的に困窮しているとは考えられず、宗教法人として税制の優遇を得ていることもあり、財政状況や役員人事も公開して法人としての透明性の確保が必要である。

神宮外苑は都心の緑地として、神宮内苑、東宮御所、新宿御苑などとともに、夜間に都心の空気を清浄化、クールダウンし、ヒートアイランド化を防いでいると専門家は述べ、日本イコモスは樹木伐採を行わない対案も提案している。風致地区である明治神宮外苑に大規模開発は不要である。

私たちはこの計画に満腔の怒りを持って反対し、「神宮外苑を未来へ手わたす」ことを再度確認する。

2022 年 11 月 29 日

神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会

メール info@2020-tokyo.sakura.ne.jp

ホームページ <http://2020-tokyo.sakura.ne.jp>

共同代表

大橋智子(大橋智子建築事務所)

上村千寿子(景観と住環境を考える全国ネットワーク)

酒井美和子(デザイナー・まちまち net)

清水伸子(一般社団法人グローバルコーディネーター)

多田君枝『コンフォルト』エディトリアル・ディレクター)

多児貞子(たてもの応援団)

日置圭子(地域文化企画コーディネーター・粋まち代表)

森まゆみ(作家・谷根千工房)

山本玲子(全国町並み保存連盟)